

2011年度 学部共同研究会一覧

回 / 日 時	テーマおよび報告者
第1回（4月7日）	立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催「フェミニズムシティズンシップ」 Ruth Lister 氏（英国・ラフバラ大学社会学部名誉教授）
第2回（6月1日）	立命館大学コリア研究センター共催「Neo-liberal Korean Society in Films & TV」 朱 恩佑氏（韓国・中央大学社会学部副教授）
第3回（7月5日）	＜私の研究＞ 「メディアリテラシーの歴史・現状と課題」 浪田 陽子氏（産業社会学部准教授） 「戦後日本の知識人と音楽のメディア文化史」 栗谷 佳司氏（産業社会学部准教授）
第4回（7月29日）	＜私の研究＞ 「若者に対する就労支援政策の課題—いくつかの調査における主要な論点—」 櫻井 純理氏（産業社会学部教授） 「制度論的な社会経済分析の射程：タイの家計行動に関するマイクロ個票調査をてがかりにして」 江口 友朗氏（産業社会学部准教授）
第5回（7月8日）	「原発事故による健康被害」—放射線の外部被曝と内部被曝，許容量とは何か 宗川 吉汪氏（日本科学者会議京都支部事務局長・京都工芸繊維大学名誉教授） 「原発に依存しない自然エネルギー」—ドイツ・欧州の自然エネルギー買取制度，日本の太陽光発電余剰電力買取制度の問題点 竹濱 朝美氏（産業社会学部教授）
第6回（12月6日）	辻 勝次著『トヨタ人事方式の戦後史※』をめぐって ※ミネルヴァ書房，全879頁，2011年6月出版 辻 勝次氏（立命館大学名誉教授） コメンテーター：中川 勝雄氏（立命館大学名誉教授）・大野 威氏（産業社会学部教授）
第7回（12月20日）	＜私の研究＞ 「受刑者に対するロールレタリングを用いた支援の研究—反省と更生に導くための重要な視点—」 岡本 茂樹氏（産業社会学部教授） 「『時間』と社会政策：レジャー研究からのアプローチ」 市井 吉興氏（産業社会学部准教授）
第8回（1月27日）	＜私の研究＞ 「川端康成『乙女の港』鑑賞」 下條 正純氏（産業社会学部教授） 「母音の無声化とその構造：「草」は kusa か ksa か」 平山 真奈美氏（産業社会学部准教授）
第9回（1月20日）	「“島”（奄美群島）の新聞記者の仕事とその課題，および“島”の新聞記者からみた“島”の現状」 久岡 学氏（南海日日新聞記者）
第10回（2月20日）	‘Debates on the legitimacy of human rights’ Robert Fine 氏（英国・ウォーリック大学名誉教授）
第11回（3月6日）	＜定年退職記念研究会＞ 「私の研究教育と産社」 池内 靖子氏（産業社会学部教授） 高木 正朗氏（産業社会学部教授） 林 堅太郎氏（産業社会学部教授）